

局地的豪雨や台風 への備え 有事の際には 迅速な行動を

照 会 危機管理課 ☎0537(85)1119

近年、局地的豪雨や台風による被害が増えています
窓にたたきつける雨の音におびえ
いつ避難すればいいか、不安になる人もいるでしょう
今回、国がガイドラインを見直し
避難のタイミングが明確化されました

避難のタイミングを明確化

昨年、西日本を中心に「平成30年7月豪雨」が、広範囲で甚大な被害をもたらし、尊い命が失われました。災害時は、気象庁や自治体などがたくさんの方の防災情報を発信し、避難も呼びかけられたといえます。しかし、情報量が多いうえに、分かりづらい内容だったことで、大多数の住民がうまく活用できない状況だったのではないかと専門家が指摘しました。

そこで国は、災害が発生する可能性の高まりに応じ、住民の避難行動などを支援する情報の発信が必要だと考え、「避難勧告等に関するガイドライン」を改訂しました。

自然災害の猛威は、突然襲いかかってきます。避難するか、しないかは自身の判断と行動に委ねられます。今回ガイドラインが見直されたことにより、従来の情報に加え、自分の判断で避難行動できるよう、その判断基準となる5段階の分かりやす



平成 16 年 10 月 9 日 新野川
普段の水位は 50% 程度の静かな河川が、
台風 22 号の豪雨により氾濫寸前になった